

# 久良岐便り

第73号



暑さ寒さも彼岸まで・・・

令和 5 年の夏は真夏日の連続記録を続伸した、暑い夏でした。

9 月 23 日。

秋分の日を迎えると朝夕の気温が柔らかくなり、10 月に入ると一気に秋空に代わり始めました。

青空が高くなっていきますね。

社会福祉法人  
久良岐母子福祉会

〒232-0063

横浜市南区中里 3-23-1

☎ 045-731-5994

fax 045-721-3166

<http://www.kuraki-boshi.or.jp/>

# 久良岐の運動会



法人より

9月30日・10月7日の2週に亘り久良岐の運動会が開催されました。  
お天気にも恵まれ、子どもたち・保護者・職員から笑顔があふれ、子どもたちの成長の姿に胸があつくなる場面が今年もありました。

令和5年9月30日(土)

## くらき永田保育園

### うんどうかい



くらき永田保育園の2023パンフレット



初めての進行アナウンス  
緊張しながら奮起!

園児たちが企画から運営まで自分たちで運動会しています



令和5年10月7日(土)

## 久良岐合同運動会

### 久良岐保育園・乳児院



今年73回を数える久良岐合同運動会。

中村新園長を中心とした新体制で望みました。

4年ぶりに園庭や地域交流室で昼食をとる親子の姿が久良岐に溢れました

砂の園庭で竹馬を操る子ども達



理事長より子ども達へ挨拶

# 法人研修 テーマ「人権」



今年の法人全体研修は9月1日、子どもの虹情報センター 増沢 高先生を講師にお迎えし、「子どもの人権擁護」について学びました。増沢先生とZOOMで各施設毎、回線を繋いでの受講形式と致しました。

最近当たり前になっている”ZOOMコミュニケーション”は、コロナウイルスの感染のいい副産物なのかもしれません。

職員一人一人が新たに学べたこと、忘れていたこと等、心がけたいことを再認識できたと思います。研修で子どもの声を聴くこと、共感することや言語化を助けること、アセスメントの必要性等、すぐ明日からの業務にも活かせる気づきや学びが多くあったと思います。



今までの自分自身の係わりを見直し、何か特別なことではなくて、より丁寧に。受け止め子どもへ返していく。前向きに明日からの養育へ向かおうと思う研修だったのでないかと思います。



いけない行動を叱ってばかりいては関係が作れない事を保育者が理解し、子どもの体験に言葉を添えて、「楽しい体験を一緒に過ごさせてもらおう」という気持ちで子どもと関わるのが良い。そして、ネガティブな感覚を、ポジティブな感覚に変えていくように関わっていくことが必要という事をお聞きして、尚且つ私達職員はチームを組んで誰か一人が苦しくならないように対応していくことが大切と教えていただきました。



研修のテーマであった『子どもの権利擁護』の中で子どもの権利に関する条約として最も必要な4つ。①差別の禁止、②子どもの最善の利益、③生命、生存、発達の権利、④子どもの意見の尊重 を重点に学ばせていただきました。どれも保育に関してとても大切な事であり、言ってしまえば当たり前の事だと感じるような内容でした。これからも4つの必要な条約を頭に入れ、日々の保育に繋げていきたいと考えます。



増沢先生

大変ためになりしっかり理解できました。有難うございました。

久良岐 職員一同

4年ぶり!

## 地域より

# 中里夏祭り



8月19日(土)～20日(日)、4年ぶりに中里夏祭りが行われました。中里には4つの自治会・町会があり、今年もその総力を集めたお祭りです。しかし最大の敵は「猛暑」！夏祭り会場は南小学校の校庭です。中里の氏神である中里熊野神社のお掃除から始まり、会場の設営、御神輿の組立て等すべてを真夏の太陽が照らし続けました。それでも準備と本番に向かうことができたのは、中里の人々が「ここに集いたい」と願い、なつかしい人を求める力だったように思います。

夕刻。日影が広がり提灯に灯りがともされると、聞こえてきたのは久良岐保育園年長園児による和太鼓の響きです。もちろんお祭りでの演奏も4年ぶり。園児保護者や祖父母の方々も来場してお祭りを盛り上げました。



中里夏祭りやこどもふれあい広場いきいきの活動動画は左記QRコードを読み取るとスマートフォンやパソコンでご覧になれます。これまでにない大きな盆踊りの人の輪(和)をご覧ください。

(予定)  
10月21日(土) 中里こどもふれあい広場いきいき  
10月29日(日) 中里第3自治会防災訓練

取材と記事 久良岐母子福祉会  
内田礼子



# 「地域と顔と顔の見える関係性に向けて!!」

## ひろげる 広がる

コロナ禍の影響により施設内外の活動行事を制限し、中止せざるを得ない状況が続いておりました。今年度のくらきでは、社会全体で失われてしまった「顔と顔の見える関係性」人とひととの交わりを地域の関わりを通して取り戻して行く活動を進めています。地域へ向けた取り組みとして『繋がる・つなげる』、『ひろげる・広がる』、『しる・まなぶ』の3つを挙げました。今回は、取り組みの2つ目である『ひろげる・広がる』を特集です!!

地域行事への参画やボランティアの受入れ、アフターケアなど様々な分野での活動を通し、『ひろげる・広がる』の実践を少しずつ進めています。

### 自治会夏祭りへの参画活動紹介

#### 学童児たちで話し合って決めた事



- ・計画段階でやってみたい事を募ると「フランクフルト店」の出店希望
- ・出店に向けて学童児は看板作りを行う事や祭りのポスターの作成
- ・子ども会での出店ブースの手伝い

#### 母たちで出来る事を募る



- ・出店準備や子ども達の看板作りの補助等
- ・子どもら作成の看板を持ってお客さんの呼び込みや行列整理等
- ・子どもと母でお祭りを楽しむ

#### 施設職員達が出来ること



- ・自治会との調整やお祭り準備
- ・出店準備、下準備
- ・当日の店番、調理係

#### 地域行事に参画してみても



- ・子ども会の役員さんから子ども達への手伝いに対し感謝の言葉を頂きました。
- ・夏祭り反省会では世代交代に関して等住民の日頃の身近な思いを聴く事が出来ました。
- ・次年度の夏祭りに向けて、くらきへの一層の協力への期待を伺う事が出来ました。

#### これから地域から求められる施設として



母子生活支援施設は秘匿性が高い施設と言われています。施設の塀の垣根を高くする事で護るのではなく、垣根を超えた地域との新しい関係性を構築する事で地域と共生する事。地域に求められ“くらき”があって良かったと言われる施設を目指す事。それを踏まえて利用者と施設職員が一丸となり地域への広報活動を通して次のステージへ一歩を踏み出し始めました。

## 母子生活支援施設 くらき

### 退所者さんインタビュー

小学6年生の頃からくらきを利用していた白川千浩さんが、今年の春に県立大学に合格を決め、長井理事長先生や成田施設長、水上副施設長へ合格の報告に施設を訪れてくれました。



小学校、中学校、高校と自分自身の進みたい音楽の分野に学校の先生や地域の人達の力を借りながら、大学受験準備を行い見事に合格しました。本人曰く「当初の計画とは全く明後日の方向に向かっての退所でしたが、高校受験の際に進路支援が本当に助かり塾にも通わず、公立高校のみでの受験合格出来たのは地域の学習ボランティアの吉田さん夫妻や NPO 法人の方々の支えもあった事をととても体感し感謝という言葉だけでは言い表せない。」との事でした。

今後について「私が支援を手伝う側として皆様に恩返しして行きたいと思うと同時に、退所し地域に出る事で入所している方のコミュニティを広げる一助として今後も関わる事で、施設側の支援を受けるだけでなく施設側と利用者が相互的にお互い助け合う関係性を構築出来たらと考えています。」

この夏休み期間にも、くらきを訪問、学童保育のお手伝いや高学年児への学習のお手伝い等母子生活支援施設に貢献してくれています。



# 乳児院と係わる地域の声... vol.2

久良岐乳児院には、日々多くのボランティアさんが活動しに来院してくれています。

様々な経歴の方々、いろいろな特技を持った方々、若い方からお年を召した方。様々な人たちが子ども達に関わってくれています。

今回は、里親研修からボランティア活動に移行された方の温かく熱い想いと、乳児院が誇るボランティアさんの顔ぶれを一部ご紹介します。



## ～ボランティアさんの想い～

### きっかけは？

久良岐で里親研修を受講し、その後ボランティア活動を続けて頂いている里親ご夫妻。現在は、里子さんと来所し、ボランティア活動を行なってくれています。

きっかけは、

やっぱり子どもが好きだから...

来院した際、ニコッと笑顔を浮かべ、近づいてきてくれる子どもたちの姿を見て、虜になったそうです。



### 思い出に残るエピソード

特に印象に残っていることは、焼き芋行事に参加した時のこと。

行事に同行した院長先生自らけんちん汁を作り、みんなにふるまいつつ、一緒に食べる姿をみたことだそうです。

里親研修時、その後実際に里親になってからも、時に厳しく、時にやさしく、見守り続けてくれた院長先生...

なにか、お母さんのような存在かな、とのことでした。

### 冷や汗エピソード!?

ここ数年、毎年サンタクロースさんになってくれています。ある年のクリスマス、在所していた6歳児から、「あっ、〇〇のおじちゃんだ〜!」と言われ、あたふた...。6歳児の鋭い眼力にタジタジとなったそうです。

あと、院長先生からも「あれ〜どっかで見たことあるんじゃない〜?」といじられたこともあったのかなかったとか...



## こんな経歴の方々も活動中!

久良岐に通い続けてほぼ30年! ほとんどの職員よりも、長〜く乳児院の子どもたちを見守り続けてくれているボランティアさんがいます! ほぼ職員さん!?



プロのカメラマンを職業にされている方もいらっしゃいます。

子ども達と遊んでくれつつ、行事では、雑誌のグラビアに載せたい! くらい素敵な写真を撮って頂いています!



インタビュー中も、一緒にいた里子さんをさりげなくサポートし続ける里親ご夫妻。

他にもたくさんの素敵な方々が、乳児院を見守ってくれていることに、改めて感謝の気持ちでいっぱいになりました。

# 久良岐乳児院

## 継承

今年度は、乳児院が長く大切に使い続けている物品を紹介していきます。

第2回は、

### 食器

今年度、子どもも大人も新しく食器を寄付して頂きました。可愛い温かみのある陶器のしっかりとした食器。子ども達も「新しくなった!」と大喜びです。

NEW!



そこで、以前まで使用していた食器は... 子ども達の遊びに活用することになりました!



おまごだけでなく、お砂場遊び玩具や水遊び玩具にも使用しています。

大切に食事で使用していた食器...これからはおもちゃとして大切に使い続けていきたいと思っています。

地域とつながる！

つながりたい！！！！



# つながる輪

17年以上前から久良岐保育園に美味しいお魚を提供してくださっています。  
取材をしている中で、  
**「子どもたちには美味しいものを食べてほしい」と**何度もおっしゃっていました。船田さんの想いがたくさん詰まったお魚。その想いが食べている子どもたちの笑顔につながっているのだと改めて感じました。  
今まで以上に感謝の気持ちを持って子どもたちと一緒にお魚をいただきたいと思います！！



## 給食

「子どもたちにおすすめのお魚はありますか？」と聞くと「カラスガレイがいいよ！！」と教えてくれ、試食用に持ってきてくれました。給食でカラスガレイが出た日は、「ふわふわしている！！」「やわらかい！」と言ってたくさん食べていました。

子どもたちが食べやすいように！と毎回、骨を抜き40グラムの大きさに切って届けてくれています。

## ほっかほか会

美味しいお魚を地域みなさんにも食べてもらいたい！と思い、ほっかほか会で食べているおむすびにも『船田』さんの鮭を使っています。一口食べると「美味しい！！」という声が響き、毎回「おかわりはありますか？」とおむすびを求めて行列ができています。



## 『ほっか<sup>でん</sup>田』と名付けました！！！！

6月のほっかほか会で地域の方と育て始めたバケツ稲。

子どもたちにも稲を身近なものとして感じてもらいたい！と思い、『ほっか田』と名付けました。園児たちにも園庭に出るたびに稲の成長を見守っています。

バケツで育てたお米でおむすびをつくり、地域みなさんと食べられる日を楽しみにしています。



これまでたくさんの地域の方と出会ってきました。そのつながりをより深められるよう、今回はいつも給食で私たちの健康を支えてくださっているおひとり、お魚屋さん「船田」に取材に行ってきました。  
取材をして、これまで温かい想いでお魚を届けてくださっている船田さんと、これからもこのつながりを大切にしていきたいと感じました。

# くらき永田保育園

## 職員の“まなび”は止まらない!

～『今』 私たちがまなびたいことを。くらき永田保育園流アクティブラーニング～

### 動画によるリフレクション(振り返り)

#### VisRef

SONY の研究所と一緒に保育中の AI でセンシングした動画を活用した研修を実施。保育園で開催したイベントから生まれたアイデアを基にした保育カメラの進化系。



①保育風景を撮影

視線の推定(AI) 子どもと大人の比率の機能も開発中



②動画を見ながら個々にリフレクション



室内の音量

人の数(AI)



③チームで動画を見ながら、その時の想いやこどもはどう感じたと思うか等を受け止め合う



リフレクションで気になった場面を付箋付け

ビデオでのリフレクションアプリ【VisRef】開発者の大和田さん。SONY の研究所で研究をされている大和田さんに伺いました。

【VisRef】を開発したきっかけや想いを教えてください。

『くらき永田保育園でのイベントから生まれた制作に誘われ、保育に関心を持ちました。なかなか現場活動の改善に役に立つものにならなくて、悩んだ挙句、自分が保育士になれば現場のことがよくわかるのではないかと考えて保育士になりました。

その結果、外部の人間ではわからないようなことや、保育士が大切にしていることなど、いろいろなことを学び、【VisRef】につながっています。

もっと保育に役立つよいものにして、くらき発の全国区のツールとして使ってもらえるように育てていきたいです。』

くらき永田保育園で保育士としても活躍中!



### 講師による研修

- ★わらべうた
- ★不審者対応 等

「歌うのが苦手に見えても、歌い出しの高さを変えると歌えるようになる子もいるんですよ。」



### 職員による研修

- ★係による研修
- ★ワーク
- ★研修報告
- ★実践発表



### 他園・他機関

- ★他園との交流・見学・実践発表
- ★関係機関への見学





## 編集後記



赤い羽根共同募金が10月1日から始まりました。

今年も久良岐は、弘明寺商店街の中央に位置する観音橋の橋上で募金活動に参加しました。

商店街の役員の方、保育園の保護者の方、卒園児、多くの地域の方から募金のほかお声がけも頂き、笑顔と呼びかけの声にも元気をいただきました。

第73号

令和5年 10月 12日発行

編集委員

高山 佐藤（久良岐保育園）

久野 郷間（久良岐乳児院）

田代（母子生活支援施設くらき）

寺田（くらき永田保育園）

広報委員長 嶺岸（法人本部）